基本教養科目

科目名	情報処理演習 I					担当者名	小林 健 雄
	[卒業必修]						
ナンバリング	24Y11A10	授業の種類	演 習	単位数	1	開講時期	1年・前期
授 業 内 容	Wordの基本機能を理解し、文章の入力や図・表の挿入、段組、差し込み印刷等ができるように日本語文書の作成の仕方を習得する。						
到 達 目 標	Wordの基本機能を理解し、図・表の挿入、段組、差し込み印刷等の簡易な日本語文書を作成できること。指示された実習課題を作成できること。						
授 業 計 画	回	タイトル	内 容				
	1	はじめに	情報システムの使い方、タッチタイピング練習、セキュリティについて				
	2	Windows10	Windows10、Word入門				
	3	日本語の入力	入力方式の設定、ひらがな・カタカナ・漢字変換				
	4	文章の入力	文節変換、入力の訂正、特殊な入力				
	5	文書の作成 1	書式設定、文章の入力、保存、読み込み、印刷				
	6	文書の作成 2	文字の複写・削除・移動、文章の複写・削除・移動				
	7	編集機能 1	右揃え、中央揃え、箇条書き入力、フォントの変更、太字、斜体				
	8	編集機能 2	均等割り付け、文字の網掛け、下線				
	9	表・メールの設定	表の作成、行・列の挿入削除、メールの設定・使い方				
	10	画像	画像の貼り付け、サイズ変更・移動				
	11	テキストボックス	テキストボックスの挿入、編集				
	12	ワードアート	ワードアートの挿入、編集				
	13	Wordの活用1	スクリーンショット、段組、ドロップキャップ				
	14	Wordの活用2	差し込み印刷				
	15	まとめ	まとめ				
成績評価方法と基準	評価方法		評 価 基 準			割合	
	授業参加態度		授業への参加意欲・取り組み姿勢があること			10%	
	授業中課題		課題の到達度			30%	
	実技試験		問題の正答率			60%	
教科書 参考図書	30時間でマスター Word2019 実教出版						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中課題の質問に答え、授業時間内に理解できなかったことは、メールにて質問を受け、応答する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		情報処理演習Ⅱ				担当者名	小林健雄
		[卒業必修]					
ナンバリング	24Y11B11	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・後期
授業内容	次のようなExcel（表計算ソフト）の基本的な機能の理解と操作方法を習得する。 ①セルへのデータの入力、文章の入力、編集の仕方を習得する。 ②相対参照と絶対参照を理解し、Excelを使って表計算の仕方を習得する。 ③グラフの挿入、編集の仕方を習得する。 ④主要な関数を理解し、使えるようにする。						
到達目標	数式を入力して値を求めることができること。 相対参照と絶対参照を理解すること。グラフを作成できること。 合計、平均、最大・最小を求める。IF関数等主要な関数を理解し、使えること。						
授 業 計 画	回	タイトル	内 容				
	1	はじめに	Excel基本、WordとExcelの違い				
	2	データの入力	セルにデータや文章を入力する、編集する				
	3	Excel入門	合計の計算、ファイルの保存と呼び出し、印刷、グラフの作成				
	4	ワークシートの活用1	行・列の削除・挿入・移動、列幅・行の高さの変更、平均の計算				
	5	相対参照	計算式の複写とセル番地の相対参照、表示形式の変更				
	6	罫線	罫線、便利なデータ入力の方法、オートカルク、セルのスタイル				
	7	絶対参照	セル番地の絶対参照				
	8	ワークシートの活用1	表示形式の変更2、文字属性の変更				
	9	最大・最小	MAX関数、MIN関数				
	10	データのカウンタ	COUNT関数、COUNTA関数				
	11	四捨五入	データの四捨五入、切り上げ、切り捨て				
	12	条件の判定	IF関数				
	13	グラフ	棒、積み上げ、折れ線、円グラフの作成、ラベルの編集				
	14	いろいろなグラフ	複合グラフ				
	15	まとめ	まとめ				
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	授業参加態度		授業への参加意欲・取り組み姿勢があること			10%	
	授業中課題		課題の到達度			30%	
	実技試験		問題の正答率			60%	
教科書 参考図書	30時間でマスター Excel2019 実教出版						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中課題の質問に答え、授業時間内に理解できなかったことは、メールにて質問を受け、応答する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		日本語表現 I (文章)				担当者名	八木 雄一郎
		選択					
ナンバリング		24Y11A03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術を身に付ける。レポート、論文の書き方等の文章作法を習得する。					
到達目標		日本語による文章作成に関する基本的な能力が身に付いている。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	日本語表現についての概論					
	2	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用					
	3	文章を書くための基本的な技術やルール					
	4	文章を書く際の着想力や発想力					
	5	文章の構成に要求される表現技術					
	6	新聞記事などの朗読を通して学ぶ効果的な朗読法					
	7	目的に合わせた文章表現					
	8	授業のまとめ					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		課題への対応		授業課題への取り組み		40%	
		授業時の活動		活動への参加態度		30%	
		最終レポート		課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。		30%	
						%	
教科書		特になし					
参考図書		授業中に指示する。					
準備学習		授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。					
課題等に対するフィードバック方法		提出された作文等については資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		信州大学教育学部准教授(国語科教育学関連の講義・演習を担当)、長野看護専門学校非常勤講師(「論理学」担当)					

科目名	日本語表現Ⅱ（口頭）					担当者名	八木 雄一郎
	選択						
ナンバリング	24Y11B04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	発声や発音の訓練、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考、説得力や自己表現力を高めるための技法などを学習し、初年次教育科目として日本語による発表や討論のための実践的なスピーチ、プレゼン等の能力を高めていく。						
到達目標	論理的思考や客観的思考に基づいた実践的なスピーチができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	日本語表現Ⅱの概論					
	2	聞きやすい発声や発音の訓練					
	3	論理的思考・客観的思考に基づいた的確な意見の述べ方について					
	4	論理的思考・客観的思考に基づいた議論の進め方について					
	5	説得力や自己表現力を高めるための技法について①					
	6	説得力や自己表現力を高めるための技法について②					
	7	演習					
	8	授業のまとめ					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	課題への対応	授業課題への取り組み				40%	
	授業時の活動	活動への参加態度				30%	
	最終レポート	課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。				30%	
						%	
教科書	特になし						
参考図書	授業中に指示する。						
準備学習	授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。						
課題等に対するフィードバック方法	提出された作文やレポート等については資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授(国語科教育学関連の講義・演習を担当)、長野看護専門学校非常勤講師(「論理学」担当)						

科目名	英語表現 I (基礎)					担当者名	中田麗子
	幼2種 (必修)						
ナンバリング	24Y11A05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・①
授業内容	高等学校までの既習の教科目の学習内容を踏まえたうえで、日常的な場面（特に保育に関連した場面）において頻出する英語の表現、実際の場面を想定した英語によるコミュニケーションについて学習する。						
到達目標	日常的な場面（特に保育に関連した場面）において頻出する英語表現や実際の場面を想定した英語によるコミュニケーションができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	英語表現 I (基礎) の概論					
	2	高等学校までの既習の学習の復習					
	3	日常的な場面における英語の表現①					
	4	日常的な場面における英語の表現②					
	5	日常的な場面における英語の表現③自己紹介					
	6	日常的な場面における英語の表現④道路案内					
	7	日常的な場面における英語の表現⑤コミュニケーション					
	8	授業のまとめ					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	授業態度	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか				40%	
	課題レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめて提出できたか				60%	
						%	
教科書	—土屋麻衣子著『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』（金星堂）						
参考図書							
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておく。授業で出された課題をやっておく。						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーは、次の授業の際に講評を行う。課題レポートは、添削してフィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	保育士、英検1級、国際学会や会議における英語での口頭発表・議論、英語論文の執筆。						

科目名	英語表現Ⅱ（応用）					担当者名	中田麗子
	幼2種（必修）						
ナンバリング	24Y11B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	既習の「英語表現Ⅰ（基礎）」の学習内容を踏まえたうえで、様々な会話（特に保育関連）に使える、覚えておくことと便利な英語の表現について学ぶとともに、自分の意見を相手に伝えることのできる英語による応用的なコミュニケーションについて学習する。						
到達目標	覚えておくことと便利な英語の表現や自分の意見を相手に伝えることのできる英語による応用的なコミュニケーションが（特に保育に関連して）できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	「英語表現Ⅱ」の概要					
	2	「英語表現Ⅰ」の復習					
	3	様々な場面において覚えておくことと便利な英語①					
	4	様々な場面において覚えておくことと便利な英語②					
	5	自分の意見を相手に伝える場面でのコミュニケーション①					
	6	自分の意見を相手に伝える場面でのコミュニケーション②					
	7	自分の意見を相手に伝える場面でのコミュニケーション③					
	8	授業のまとめ					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	授業態度	授業ごとのリアクションペーパーを提出できたか				40%	
	課題レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめて提出できたか				60%	
						%	
						%	
教科書	—土屋麻衣子著『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』（金星堂）						
参考図書							
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておく。授業で出された課題をやっておく。						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーは、次の授業の際に講評を行う。課題レポートは、添削してフィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	保育士、英検1級、国際学会や会議における英語での口頭発表・議論、英語論文の執筆。						

科目名	キャリアデザイン I					担当者名	望月 誠
	選択						
ナンバリング	24Y11A07	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・①
授業内容	職業観を涵養し、職業に関する知識を習得させ、自己の個性を理解した上で、卒業生や外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観の醸成を図る。						
到達目標	自分の個性や性格を理解するためにの自己分析と職業選択の考え方や進め方が分かる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	キャリアを意識することで成長する力、発展する力を学ぶ					
	2	V P I 検査をもとに将来のライフプランと今できることを確認する					
	3	相談における傾聴の意義・技法について理解する					
	4	疑似体験によってカウンセリングを学ぶ（ロールプレイ）					
	5	就職活動の「流れ」について※今、すべきことは何か？					
	6	エンプロイアビリティについて考える					
	7	「キャリアの心理学」キャリアカウンセリングの観点から					
8	「Planned Happenstance Theory (計画された偶発性)」						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		平常点	積極的にGW（グループワーク）に参加しているか			15%	
		課題・振り返り	各講義のテーマに対して自分の意見が書けているか			35%	
		試験（レポート）	レポート課題に対して論理的に表現ができているか			50%	
教科書		資料を配布する。					
参考図書		『キャリアデザイン概論』（雇用問題研究会）・『産業カウンセリング入門』（社団法人産業カウンセラー協会）					
準備学習		時事関連のニュース等に着目し、自分の注目すべきキーワードについて発言（主張）ができるようにすること					
課題等に対するフィードバック方法		各講義の最後の「ふりかえりシート」の記入を課す。次回フィードバックとして、講師からのコメントを確認し前回の講義をふりかえりステップとして講義に臨む					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		キャリアをデザインするために、磨杵作針というように1～4時間の予習・復習を伴う					
その他 留意事項		学習とは、「なぜ？本当？」の気持ちで臨むこと					
実務経験と資格等		長野女子高等学校教頭、Summit Academy Secondary School NAGANO教諭、教育学修士、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(中学)、高等学校教諭専修免許状(地歴公民)、自治体・高等教育機関との社会活動(嘱託)多数、歴史学・社会科学分野の所属学会等多数、地域社会に関する学会発表・論文・共著等多数。					

科目名	キャリアデザインⅡ					担当者名	望月 誠
	選択						
ナンバリング	24Y11D08	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	社会が求める人材像についての理解し、ビジネスマナーに関する知識や態度の習得を測り将来への目的意識を明確にし、目標設定や目標達成のための考え方を学習する。						
到達目標	生涯学習の観点から目標設定や目標達成のための考え方について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	キャリアの視点から自己概念を理解する					
	2	「キャリア・アンカー」の理論を知る					
	3	自分のコミュニケーション特性を知る					
	4	GATBの考え方と見方について学ぶ（アセスメント）					
	5	VPI職業適性検査について学ぶ（アセスメント）					
	6	日本の給料&職業の理解について学ぶ					
	7	社会人基礎能力を高めるには？					
	8	メンタルヘルスとストレスマネジメント					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	平常点	積極的にGW（グループワーク）に参加しているか				15%	
	課題・振り返り	各講義のテーマに対して自分の意見が書けているか				35%	
	試験（レポート）	レポート課題に対して論理的に表現ができているか				50%	
教科書	資料を配布する。						
参考図書	児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』（誠信書房）・大久保幸夫『キャリアデザイン入門Ⅰ・Ⅱ』（日経文庫）						
準備学習	時事関連のニュース等に目し、自分の注目すべきキーワードについて発言（主張）ができるようにすること						
課題等に対するフィードバック方法	各講義の最後の「ふりかえりシート」の記入を課す。次回フィードバックとして、講師からのコメントを確認し前回の講義をふりかえりステップとして講義に臨む						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	キャリアをデザインするために、磨杵作針というように1～4時間の予習・復習を伴う						
その他 留意事項	学習とは、「なぜ？本当？」の気持ちで臨むこと						
実務経験と資格等	長野女子高等学校教頭、Summit Academy Secondary School NAGANO教諭、教育学修士、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(中学)、高等学校教諭専修免許状(地歴公民)、自治体・高等教育機関との社会活動(嘱託)多数、歴史学・社会科学分野の所属学会等多数、地域社会に関する学会発表・論文・共著等多数。						

科目名	育児と介護				担当者名	中山 和子	
	選択						
ナンバリング	24Y11E09	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②④
授業内容	高齢化社会の進展に伴う核家族化や単身世帯の増加など現代社会が抱える問題点や課題について認識を深めることで、育児や介護のあり方について考察していく。						
到達目標	現代家族の機能や役割と家族制度や家族関係をめぐる諸問題について考えることができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	育児と介護の現状と課題					
	3	育児と介護に関わる制度や施策の変遷					
	4	介護を必要とする人の理解					
	5	介護のはたらきと基本的な視点					
	6	育児と介護のサービスのあり方と多職種連携について					
	7	医療的ケア児の現状と課題					
	8	育児と介護を支えるコミュニティ					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	授業態度	グループワーク等に積極的に参加している			30%		
	試験（筆記）	問題の正答率			40%		
	レポート	内容及び提出状況			30%		
					%		
教科書	最新福祉養成講座12 発達と老化の理解：中央法規						
参考図書	国民衛生の動向 ・ 現代社会福祉の諸相 著者：大熊信成・嶋田芳男・増田康弘 大学図書出版						
準備学習	自分の身の回りの育児や介護の状況に関心を寄せる						
課題等に対するフィードバック方法							
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	適宜実施するグループワーク等に積極的に参加すること						
実務経験と資格等							

科目名	地域と文化					担当者名	平出 淳史
	選択						
ナンバリング	24Y11E10	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②④
授業内容	日本や地域の伝統的な宗教や行事、生活や伝承、芸道や芸能、芸術や音楽などの学習を通して郷土文化や生活文化の諸相について理解し、国家や象徴、精神などの生活様式の題材を調査・分析を行う。						
到達目標	郷土文化や生活文化の諸相について理解し、伝統継承や文化振興に貢献する意識を持っている。						
授業計画	回	内 容					
	1	善光寺と信濃の信仰					
	2	県民の心を繋ぐ「信濃の国」					
	3	「信濃の国」から読み解く信濃①					
	4	「信濃の国」から読み解く信濃②					
	5	信濃の自然「火山の恩恵」					
	6	信濃の歴史①					
	7	信濃の歴史②					
	8	信濃の歴史③					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	筆記試験	問題の正答率				80%	
	課題・レポート・提出物	問題の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				10%	
	授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				10%	
教科書	授業ごとテーマに沿った資料を配付する						
参考図書							
準備学習	必要に応じて事前学習や資料収集を指示する						
課題等に対するフィードバック方法	添削して返却し、返却時には講評・解説を行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	経済と政策					担当者名	望月 誠
	選択						
ナンバリング	24Y11E11	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②④
授業内容	現代経済の基本的な概念と枠組みについて概説したうえで、経済的な見方や捉え方、考え方について学習する。現代社会における経済構造と経済政策との関連性や経済問題の多様性の理解を通して、経済活動や経済現象に対する興味と関心を深めていく。						
到達目標	現代社会における経済構造と経済政策との関連性や経済問題の多様性を理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	経済と政策の相関関係について					
	2	生活の豊かさを表す数字とは					
	3	市場経済における価格設定（ガソリンが価格調整されている）					
	4	薄利多売は誰がよろこぶ？（価格の決定）					
	5	生涯賃金（ファイナンシャルプランの観点から）					
	6	生活に直結する税金					
	7	経済と政策と人口のトライアングル					
	8	格差社会における貧困の現実					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	平常点	積極的にGW（グループワーク）に参加しているか				15%	
	課題・振り返り	各講義のテーマに対して自分の意見が書けているか				35%	
	試験（レポート）	レポート課題に対して論理的に表現ができているか				50%	
教科書	宮本弘暁『私たちの日本経済』（有斐閣 2024年）						
参考図書	『大人のための社会科-未来を語るために-』（有斐閣 2017年）						
準備学習	時事関連のニュース等に着目し、自分の注目すべきキーワードについて発言（主張）ができるようにすること						
課題等に対するフィードバック方法	各講義の最後の「ふりかえりシート」の記入を課す。次回フィードバックとして、講師からのコメントを確認し前回の講義をふりかえりステップとして講義に臨む						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	身近な経済を知るために、磨杵作針というように1～4時間の予習・復習を伴う						
その他 留意事項	学習とは、「なぜ？本当？」の気持ちで臨むこと						
実務経験と資格等	長野女子高等学校教頭、Summit Academy Secondary School NAGANO教諭、教育学修士、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(中学)、高等学校教諭専修免許状(地歴公民)、自治体・高等教育機関との社会活動(嘱託)多数、歴史学・社会科学分野の所属学会等多数、地域社会に関する学会発表・論文・共著等多数。						

科目名		自然と環境				担当者名	平出 淳史
		選択					
ナンバリング	24Y11E12	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②④
授業内容	大気汚染・水質汚濁・森林破壊・異常現象・自然災害・自然保護等の自然環境や公害問題・騒音問題・廃棄物処理・二酸化炭素削減等の社会環境及び持続可能社会・循環型社会・環境共生都市等の都市環境など、地球規模で生じている環境現象の題材を取り上げ考察し、環境に対する問題意識を高め、環境劣化・環境汚染・環境破壊・環境かく乱などの課題と対策に関する理解を深める。						
到達目標	地球規模で生じている環境現象の題材を取り上げ、その課題と対策を考察することができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	私たちを取り巻く環境					
	2	私たちが住む地球					
	3	気象と健康					
	4	地球温暖化					
	5	地球環境問題					
	6	地域環境問題					
	7	室内における環境問題と都市の環境問題					
	8	化学物質と放射性物質による環境汚染					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		筆記試験	問題の正答率			80%	
		課題・レポート・提出物	問題の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			10%	
		授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			10%	
教科書	授業ごとテーマに沿った資料を配布する						
参考図書							
準備学習	必要に応じて事前学習や資料収集を指示する						
課題等に対するフィードバック方法	添削して返却し、返却時には講評・解説を行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	健康と運動 I					担当者名	白金 俊二
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	24Y11D13	授業の種類	講義・演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	社会生活における健康と安全について概説したうえで、健康と安全や運動についての理解と各種の運動の特性に応じた実践を行い、技能や能力を身に付けて行く。						
到達目標	運動の楽しさや喜び及び運動の多様性や体力の必要性を理解し、各種の運動の特性に応じた技能や能力を身に付けることができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	健康と安全の考え方について					
	3	健康の維持・増進と疾病予防について					
	4	生活習慣病と予防について					
	5	ストレス現象と解消について					
	6	心肺蘇生法等の応急処置について					
	7	ゴール型球技（1）					
	8	ゴール型球技（2）					
	9	ゴール型球技（3）					
	10	ネット型球技（1）					
	11	ネット型球技（2）					
	12	ネット型球技（3）					
	13	ダンス（1）					
	14	ダンス（2）					
15	ダンス（3）						
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	平常点・課題	授業への参加意欲、取り組み姿勢を評価する				40%	
	実技	それぞれの種目の特性を理解し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力				30%	
	定期試験	正答率				30%	
教科書	資料を配布する						
参考図書	必要があれば資料をGoogle classroomに載せる						
準備学習	日頃から運動習慣をつけ、体力の向上をはかり、体調管理をしておく 授業で取りあげたスポーツのルール等を確認しておく						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	チャイムの前に用具の準備を協力して済ませておくこと 水分補給をするので、必ずペットボトルか水筒など蓋つきの飲料水を用意してくること 運動にふさわしい服装、髪形で参加すること タイツやサンダルは禁止 筆記用具持参						
実務経験と資格等	長野女子高等学校講師、長野県短期大学講師 信学会長野幼稚園体育教諭 信学会裾花幼稚園体育教諭 中学校教諭一種免許状（保健体育・家庭） 高等学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）						

科目名		健康と運動Ⅱ				担当者名	白金 俊二	
		幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング		24Y11D14	授業の種類	講義・演習	単位数	1	開講時期	2年・④
授業内容		適切な運動の経験を通して生涯に通じる健康と健康を支える環境づくりについて理解したうえで、生涯スポーツの目的や意義について学ぶ。						
到達目標		個人の生活・健康状態・年齢及び体力に応じた生涯スポーツの実践や方法について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	授業の目的と概要について						
	2	生涯スポーツの目的と意義について						
	3	健康を支える環境づくりについて						
	4	体力向上のための運動について						
	5	健康増進のための運動について						
	6	体づくり運動（1）						
	7	体づくり運動（2）						
	8	体づくり運動（3）						
	9	体づくり運動（4）						
	10	野外の運動（1）						
	11	野外の運動（2）						
	12	野外の運動（3）						
	13	野外の運動（4）						
	14	生涯スポーツ社会の実現について						
15	授業のまとめ							
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		平常点・課題		授業への参加意欲、取り組み姿勢を評価する			40%	
		実技		それぞれの種目の特性を理解し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力			30%	
		レポート		課題の趣旨を理解し、適切にまとめられているか			30%	
教科書		資料を配布する						
参考図書		必要があれば資料をGoogle classroomに載せる						
準備学習		日頃から運動習慣をつけ、体力の向上をはかり、体調管理をしておく 授業で取りあげたスポーツのルール等を確認しておく						
課題等に対するフィードバック方法		リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する						
その他 留意事項		チャイムの前に用具の準備を協力して済ませておくこと 水分補給をするので、必ずペットボトルか水筒など蓋つきの飲料水を用意してくること 運動にふさわしい服装、髪形で参加すること タイツやサンダルは禁止 筆記用具持参						
実務経験と資格等		長野女子高等学校講師、長野県短期大学講師 信学会長野幼稚園体育教諭 信学会裾花幼稚園体育教諭 中学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）高等学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）						

科目名	日本国憲法					担当者名	平出 淳史
	幼2種（必修）						
ナンバリング	24Y11C15	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構について概観した上で、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障の意義、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて学び、民主政治の本質や現代政治の特質について学習する。						
到達目標	民主政治の本質や現代政治の特質について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	憲法とは何かについて					
	3	憲法の私人間効力について					
	4	人権の享有主体について					
	5	法の下での平等について					
	6	信仰の自由について					
	7	学問の自由について					
	8	表現の自由について					
	9	経済的自由権と社会権について					
	10	教育を受ける権利について					
	11	国会と内閣について					
	12	裁判所・違憲審査制について					
	13	地方自治について					
	14	地方自治について					
	15	授業のまとめ					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		筆記試験	問題の正答率			80%	
		課題・レポート・提出物	問題の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			10%	
		授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			10%	
教科書	授業ごとテーマに沿った資料を配布する						
参考図書	エッセンシャル法学（大谷實編著、成文堂）						
準備学習	必要に応じて事前学習や資料収集を指示する						
課題等に対するフィードバック方法	添削して返却し、返却時には講評・解説を行う						

準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～2時間
その他 留意事項	
実務経験と資格等	

專門基礎科目

科目名	教育原理				担当者名	副島 里美 荒井 聡史 (オムニバス)	
	幼2種・保育士(必修)						
ナンバリング	25Y22A01	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の発達と教育の必要性を理解する ・現代に至るまでの教育思想の変遷とそれに関わる教育制度について理解する ・現代の教育実践の取り組みを理解する中で今後の課題について探求する 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の意義・目的及び教育の制度について理解する ・教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する ・教育の現状と課題を探求する 						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について(担当:全教員)					
	2	教育学の諸概念及び教育の本質と目標について(担当:荒井聡史)					
	3	教育の意義と目的及び乳幼児期の教育の特性について(担当:副島里美)					
	4	教育と子ども家庭福祉の関連性について(担当:副島里美)					
	5	教育と子ども家庭福祉の関連性について(担当:副島里美)					
	6	教育の歴史と思想(1) 家族と社会による教育の歴史(担当:荒井聡史)					
	7	教育の歴史と思想(2) 家庭や学校に関わる教育の思想(担当:荒井聡史)					
	8	教育の思想と歴史(3) 諸外国と代表的な教育家の思想(担当:荒井聡史)					
	9	教育制度の基礎及び成立と展開について(担当:荒井聡史)					
	10	教育法規と教育行政について(担当:荒井聡史)					
	11	教育実践の基礎理論(内容・方法・計画と評価)について(担当:副島里美)					
	12	教育実践の多様な取り組みについて(担当:副島里美)					
	13	生涯学習社会と教育について(担当:荒井聡史)					
	14	現代社会における教育課題について(担当:荒井聡史)					
15	授業のまとめ(担当:全教員)						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	小テスト	授業の振り返り				40%	
	提出物	課題等の内容				20%	
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習(反転学習)の励行				10%	
	試験もしくはレポート	定期テストあるいはレポートの評価				30%	
教科書	北野幸子編著『改訂 子どもの教育原理』(建帛社) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育原理					担当者名	副島 里美 中野 明子 (オムニバス)
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25Y22A02	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の方法や内容の基礎的考え方を理解する ・ 現代保育に至るまでの歴史の変遷を理解する ・ 多様化社会での様々な配慮を理解する ・ 諸外国の保育の現状を理解する ・ 保育者としての専門性と質向上の必要性を理解する 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の保育の目標、方法、内容、特性や、現在の保育に至るまでの歴史的背景など、保育に関する基本的専門的な知識や考え方を理解する。 ・ 現代の保育における課題を理解し、自ら解決策を考えようとする意識を持つ。 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について (担当: 全教員)					
	2	保育の理念と概念について (担当: 中野明子)					
	3	子どもの最善の利益と子ども家庭福祉 (担当: 中野明子)					
	4	保育の社会的役割と責任について (担当: 中野明子)					
	5	保育に関する法令と子ども・子育て支援新制度について (担当: 中野明子)					
	6	保育の実施体系について (担当: 中野明子)					
	7	保育所保育指針と保育所保育に関する基本原則について (担当: 副島里美)					
	8	保育における養護について (担当: 副島里美)					
	9	保育の目標と内容について (担当: 副島里美)					
	10	保育の環境と方法について (担当: 副島里美)					
	11	保育の過程とその循環について (担当: 副島里美)					
	12	保育の思想と歴史について (担当: 副島里美)					
	13	日本の保育の現状と課題について (担当: 副島里美)					
	14	諸外国の保育の現状について (担当: 中野明子)					
	15	授業のまとめ (担当: 全教員)					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業の振り返り	小テスト、あるいは振り返りレポートの提出			40%	
		授業態度	授業への積極的参加、予習復習 (反転学習) の励行			20%	
		提出物	課題等の内容、時間の順守			20%	
		最終テストまたはレポート	定期テストあるいはレポートの評価			30%	

教科書	『改訂版 保育原理の基礎と演習』わかば社 保育原理～はじめて保育の扉をひらくあなたへ～第2版」株式会社みらい 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』, 厚生労働省 『保育所保育指針解説書』 (フ レーベル館) 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 (フ レーベル館)
参考図書	適宜指示する
準備学習	適宜指示する
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	2時間程度を推奨する
その他 留意事項	
実務経験と資格等	

科目名	保育者論					担当者名	中野 明子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y22A03	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・①
授業内容	今、保育者に求められている倫理観及び資質・能力を概説し、保育者の地位、身分、服務、及び研修の制度を知り、理解を深める。また、連携が必要とされる専門機関や行政組織、制度について等を学び、保育者間で育んでいきたい力（同僚性や実践的能力、保護者支援等）についての学びを深める。						
到達目標	①乳幼児保育教育の意義と保育者の役割を理解する。 ②保育者に求められる資質・能力を理解する。 ③保育者の守るべき服務及び、保育者と専門機関との連携の必要性を理解する。 ④保育者間の連携、協働について理解する。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	公教育の目的と教員の存在意義について					
	3	教職の職業的な特徴と教員の役割及び資質について					
	4	教員の職務内容と服務上・身分上の義務について					
	5	保育者の役割と倫理について					
	6	保育士の制度的な位置付けについて					
	7	保育者の専門性について					
	8	保育士の資質と能力について					
	9	養護及び教育の一体的な展開について					
	10	家庭との連携と保育者に対する支援について					
	11	保育者の連携と協働（職員間及び関係機関等）について					
	12	保育者の連携と協働（専門職間及び専門機関）について					
	13	保育者の資質向上とキャリア形成について					
	14	保育者の資質向上のための研修と学び続ける意味について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準				割合
		レポート及び感想文	課題は授業内容に沿って捉えたこと理解を深めた内容について等記述				30%
		授業態度	グループディスカッション等に意欲を持って参加しているか評価				10%
		試験	筆記試験。保育者の役割等の理解力を問う				60%
教科書	今に生きる保育者論 第4版 著者名：編集代表 秋田喜代美・中野明子 発行所：株式会社みらい						
参考図書	「保育者のための外国人保護者支援の本」かもがわ出版						
準備学習	次回のシラバスを確認。教科書および関連する報道等に関心を持ち、授業に臨むこと。						
課題等に対するフィードバック方法	授業で課した課題（レポート等）は作成し提出。返却時にコメントを添え、学びに繋げていく。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を奨励します。						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授業担当。(保育士・幼稚園教諭・保育実習指導者認定)						

科目名		保育内容総論				担当者名	副島 里美
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		25Y22A04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践を5領域を通して総合的に考える ・乳幼児の発達を生活や遊びの中で具体的に捉える ・乳幼児の指導計画と評価を実際の姿から考える 					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・領域の考え方や内容について理解する ・保育の様々な場面を5領域という総合的な視点から考察する ・「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容との関連を理解する 					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領と保育所保育指針及び保育内容の歴史の変遷について					
	2	各領域のねらいと内容及び指導上の留意点と評価の考え方について					
	3	領域ごとの内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりについて					
	4	幼児の発達に即した保育の構想と情報機器や教材の活用法について					
	5	幼児の発達や実態に即した具体的な保育の過程と指導案の作成について					
	6	保育を改善する視点と各領域の特性に応じた保育実践の動向について					
	7	養護及び教育の一体的な展開する保育と多文化共生の保育について					
	8	長時間の保育及び特別な配慮を要する子どもの保育について					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業の振り返り	小テスト			40%	
		提出物				20%	
		授業態度				10%	
		最終テストあるいはレポート				30%	
教科書		金沢妙子 前田和代 編著「遠州 進呈 保育内容総論」（建帛社） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）					
参考図書		適宜指示する					
準備学習		適宜指示する					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	幼児と健康					担当者名	白金 俊二
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y23A01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	「健康」とは何かを大きな主題として、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などについての知識を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の身体的な諸機能の発達や健康課題等について説明できる ・ 幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解できる ・ 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	健康の定義と意義及び乳幼児期の運動発達などの健康課題について					
	2	乳幼児の体の発達のな特徴と乳幼児の生活習慣の形成と意義について					
	3	幼児にとっての危険な場所や遊び方について					
	4	幼児期の怪我の特徴と病気の予防について					
	5	幼児の安全教育及び健康管理と安全管理について					
	6	乳幼児期の運動発達の特徴及び多様な動きの獲得と意義について					
	7	日常生活における幼児の動きと身体活動のあり方について					
	8	身近な環境や遊具などを活用した多様な動きについて					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		課題レポート	課題の主旨を理解した内容とまとめ方			40%	
		成果物提出、発表	授業内の成果物の提出状況や発表内容			30%	
		小テスト	授業内での小テストの正答率			30%	
教科書		保育内容健康（光生館）					
参考図書		幼児期運動指針（文部科学省）「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）					
準備学習		予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく					
課題等に対するフィードバック方法		添削をし返却をする					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者					

科目名	幼児と人間関係					担当者名	高田 俊輔
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y23A02	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景及び現代的課題について解説したうえで、乳児期に育つ人と関わる力の発達や幼児期に育つ人と関わる力の発達について学習する。						
到達目標	自立心や協調性の育ち及び道徳性や規範意識の芽生えと発達について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴について					
	2	乳児期に育つ人と関わる力の発達について					
	3	幼児期に育つ人と関わる力の発達について					
	4	自立心の育ちと発達について					
	5	協同性の育ちと発達について					
	6	道徳性や規範意識の芽生えと発達について					
	7	家族や地域のかかわりと育ちについて					
	8	実際の保育場面における人間関係の発達について					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準				割合
		最終レポート課題	授業全体の内容を理解し、保育・幼児教育への考察を深められていたかを確認する。				60%
		ミニレポート課題	各授業テーマを理解し、適切にまとめられていたかを確認する。				40%
教科書	教科書は特に指定しないが、授業内で適宜参考文献を紹介する。						
参考図書	『幼稚園教育要領』（平成29年3月文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月厚生労働省） 『新・保育実践を支える 人間関係』成田朋子編 福村出版						
準備学習	適宜、『幼稚園教育要領』および『保育所保育指針』を参照することが望ましい。						
課題等に対するフィードバック方法	授業の冒頭において、いくつかのミニレポートを匿名で紹介する予定である。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	教員免許状更新講習研修講師（令和3年11月）						

科目名	幼児と環境					担当者名	副島 里美
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y23A03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践を5領域を通して総合的に考える ・乳幼児の発達を生活や遊びの中で具体的に捉える ・乳幼児の指導計画と評価を実際の姿から考える 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の考え方や内容について理解する ・保育の様々な場面を5領域という総合的な視点から考察する ・「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容との関連を理解する 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領と保育所保育指針及び保育内容の歴史の変遷について					
	2	各領域のねらいと内容及び指導上の留意点と評価の考え方について					
	3	領域ごとの内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりについて					
	4	幼児の発達に即した保育の構想と情報機器や教材の活用法について					
	5	幼児の発達や実態に即した具体的な保育の過程と指導案の作成について					
	6	保育を改善する視点と各領域の特性に応じた保育実践の動向について					
	7	養護及び教育の一体的な展開する保育と多文化共生の保育について					
	8	長時間の保育及び特別な配慮を要する子どもの保育について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業の振り返り	小テスト				40%	
	提出物					20%	
	授業態度					10%	
	最終テストあるいはレポート					30%	
教科書	コンパクト版保育内容シリーズ『環境』谷田貝公昭監修 一藝社 『学びを支える保育環境づくり』高山静子著 小学館 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	幼児と言葉					担当者名	八木 雄一郎
	幼2種 (必修)						
ナンバリング	25Y23A04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	人間にとっての言葉の意義や機能と乳幼児の言葉の発達過程について解説したうえで、言葉に対する感覚を豊かにする実践について学習する。						
到達目標	幼児の発達における児童文化財の意義及び児童文化財の知識と活用について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「言葉」の位置づけについて					
	2	言葉の意義と機能について					
	3	乳幼児の言葉の発達過程について					
	4	言葉の楽しさと美しさについて					
	5	言葉の感覚を豊かにする実践について					
	6	幼児の発達における児童文化財の意義と種類について					
	7	児童文化財の活用について絵本、物語					
	8	児童文化財の活用について紙芝居、人形劇					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	小テスト	授業の振り返り				50%	
	課題レポート	課題の趣旨を理解し、自身の考えを文章として適切にまとめられているか。				30%	
	提出物	課題の趣旨を理解し、求められたものを提出できるか				20%	
						%	
教科書	特になし						
参考図書	授業中に指示する。						
準備学習	授業後に課題を出すことがあるので、次時までに取り組んでくること(提出方法などは授業中に指示する)。						
課題等に対するフィードバック方法	提出された作文やレポートについては資料化し、受講者全体で共有できるようにする(授業時の教材とする)。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授(「子どもと言葉」担当)						

科目名	幼児と表現（造形表現）					担当者名	水野 道子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y23A06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	①造形技法、道具、素材を知り実際に使いこなすことができるようにする。②園生活の年間行事や子どもの発達に応じた保育計画案の作成により実践の基礎力を身につける。						
到達目標	①造形技法、道具、素材を使って、教材の工夫や用具を使いこなせるようになる。②造形表現活動の保育指導計画を立てることができるようになる。						
授業計画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「造形表現」の位置づけについて					
	2	幼児の造形表現を生成する過程について					
	3	造形表現の知識と技能について（1）画材の知識					
	4	造形表現の知識と技能について（2）色彩の知識					
	5	造形表現の知識と技能について（3）造形の技法					
	6	造形表現の知識と技能について（4）造形のための援助方法					
	7	造形表現の知識と技能について（5）制作の技法					
	8	造形表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				20%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	課題提出	製作課題の主旨を理解し、工夫し提出できたか				50%	
教科書	「保育をひらく造形表現」槇英子 萌文書林、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と資格等	小学校、中学校・高等学校（美術）教員免許を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	教育心理学					担当者名	三和 秀平
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25Y23A07	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	心身の発達の過程と特徴及び発達概念と教育における発達理解の意義、様々な学習形態と概念や過程を解説したうえで、主体的な学習を支える動機づけや集団づくりと学習評価のあり方及び指導の基礎を学習する。						
到達目標	主体的な学習活動を支える指導と考え方について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	心身の発達の過程と特徴について					
	3	心身の発達に対する外的及び内的要因について					
	4	外的要因と内的要因の相互作用について					
	5	発達概念と教育における発達理解の意義について					
	6	乳幼児期から青年期における運動発達について					
	7	乳幼児期から青年期における認知発達について					
	8	乳幼児期から青年期における社会性の発達について					
	9	発達を踏まえた学習を支える指導について					
	10	様々な学習形態と概念及び過程について					
	11	主体的な学習活動を支える動機づけについて					
	12	主体的な学習活動を支える集団づくりについて					
	13	主体的な学習活動を支える学習評価のあり方について					
	14	主体的な学習活動を支える指導と考え方について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		参加態度、課題	授業への参加意欲、取り組みの姿勢を評価する。			30%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出されているかを評価する。			70%	
教科書	教育心理学（やさしく学ぶ教職課程），児玉 佳一（編集），学文社						
参考図書	随時紹介する。						
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき，あらかじめ教科書に目を通し，予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	次回の授業でフィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	原則として紙の資料の配布は行わず，オンライン上で資料を配布する。オンラインで作業することもあるため，パソコンを持参することが望ましい。						
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授，博士(心理学)						

科目名	保育の心理学					担当者名	中野 明子
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25Y23A08	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	身体発達、認知、言語、情動、社会性等の発達過程やその基盤にある発達のしくみや理論、発達の遅れや偏りに関する基本的な知識を得るとともに、子どもの発達をうながす人との関係や保育環境について学ぶ。						
到達目標	保育実践に関わる発達理論等の基礎的な知識を習得する。 発達を捉える視点を獲得し、子どもの学びを支える保育実践について理解を深める。 乳幼児期の子どもの学びが人との関係を基盤として環境を通して行われることを理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子どもの発達を理解する意義について					
	3	子どもの発達の特徴と環境について					
	4	発達理解の現代的な視点について					
	5	発達支援の総合的な視点について					
	6	乳幼児期の社会情動的発達について					
	7	身体的機能と運動機能の発達について					
	8	認知の発達過程について					
	9	言語の発達傾向について					
	10	発達に遅れや偏りがある子どもの理解と支援について					
	11	発達段階ごとの特徴と課題について					
	12	乳幼児期の学びに関する理論について					
	13	乳幼児期の学びの過程と特性について					
	14	乳幼児期の学びを支える保育実践について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	授業への積極的な取り組み		授業への積極的な取り組み			30%	
	課題		授業の中での課題			20%	
	筆記試験		問題の正答率			50%	
教科書	無藤隆・掘越紀香・丹羽さかの・古賀松香 編著 保育の心理学：子どもの育ち・学びを知る（乳幼児教育・保育シリーズ） 光生館						
参考図書	授業中に紹介する						
準備学習	事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中に解説を行うとともに、提出された課題の返却時にはフィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	特別支援教育・保育論Ⅰ					担当者名	副島 里美
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y23A09	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における「特別な支援を必要とする子ども」について学ぶ ・特別な支援の子どもの実態について、様々な事例を考える ・特別な支援の方法について学ぶ ・特別な支援を必要とする保護者へのかかわりについて学ぶ ・特別な支援と他機関との連携について学ぶ 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する子どもの教育体制を理解する ・特別な支援を要する子どもの支援の方法を理解する ・特別な支援を要する子どもの家族に対する支援方法を理解し、連携機関につなげることができる 						
授業計画	回	内 容					
	1	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み及び歴史について					
	2	特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と学習の過程について					
	3	様々な障害のある幼児の教育上及び生活上の困難について					
	4	特別の支援を必要とする幼児に対する支援の方法について					
	5	通級指導及び自立支援の教育課程上の位置づけと内容について					
	6	個別の指導計画及び教育支援計画の作成の意義と方法について					
	7	専門職や関係機関及び家族との連携による支援体制の構築について					
	8	特別の教育ニーズのある幼児の学習上又は生活上の困難と対応について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業の振り返り	授業の振り返り				40%	
	授業態度	授業への積極的参加、予習復習（反転授業）の励行				10%	
	提出物					20%	
	最終課題	(テストあるいはレポート)				30%	
教科書	柴崎正行ほか『障がい児保育の基礎』（わかば社）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育・教育課程論				担当者名	杉浦 英樹	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y23A10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・②
授業内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学び、保育のねらいや内容についての知識を習得する。保育における指導計画の意義について理解し、PDCAサイクルを行うことで保育の質を高めることを学ぶ。立案の具体的な方法について学び、実際に立案してみる。						
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての知識を得る。長期指導計画と短期指導計画の関係が理解でき、計画を立てることで保育の質が向上することを理解する。実際に長期指導計画、短期指導計画の立案ができるようになる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	幼稚園教育要領の性格と位置づけ及び改訂の変遷と内容について					
	3	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の内容について					
	4	教育課程編成の目的と役割及び機能と編成の方法について					
	5	保育における計画と評価の意義及び保育の過程について					
	6	保育の目標と計画の考え方について					
	7	全体的な計画と指導計画の関係性について					
	8	全体的な計画の作成について					
	9	指導計画（長期的・短期的）の作成について					
	10	指導計画作成上の留意事項について					
	11	保育の記録と省察及び自己評価について					
	12	保育の質向上に向けた改善の取組（PDCAの方法）について					
	13	カリキュラム・マネジメントの意義と重要性について					
	14	カリキュラム評価の考え方について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	授業態度	授業への積極的な取り組み			40%		
	課題	授業中の課題（提出状況および内容）			30%		
	期末課題	レポート課題（課題の主旨を理解し、まとめられているか）			30%		
教科書	河邊 貴子著 新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論 東京書籍						
参考図書	杉浦英樹 編著 遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム：未来の幼児教育・保育のために 学文社						
準備学習	事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	授業中に解説を行うとともに、提出された課題に対するフィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	準備学習として指定された保育施設での見学実習を重視する						
実務経験と資格等							

科目名	幼児理解					担当者名	上原 貴夫
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25Y23A11	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児理解の意義と発達や学びを捉える原理について解説し、幼児理解のための観察や記録の意義や目的に応じた観察法、幼児の生活や遊びの実態に即して、対応方法について学習する。						
到達目標	幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずきと、その要因を把握するための原理や対応の方法について理解できる。						
授業計画	回	内 容					
	1	幼児理解の意義と発達や学びの捉え方について					
	2	幼児理解を深める保育者の基本的姿勢について					
	3	幼児理解の方法（1）観察と記録の意義と目的					
	4	幼児理解の方法（2）目的に応じた観察法					
	5	幼児理解の方法（3）省察と評価の意義と目的					
	6	幼児理解の方法（4）個と集団の関係を捉える意義と方法					
	7	幼児理解の方法（5）幼児の葛藤やつまずきの理解					
	8	幼児理解の方法（6）保護者の心情と対応の方法					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	課題提出	課題について主旨を的確に理解し、適切な方法で表現できて提出できていること。				20%	
	レポート	課題について調べて適切にまとめられて提出できていること。				20%	
	試験	課題の正答率				60%	
						%	
教科書	教科書「子ども理解と観察」（大久保・梶田編著 ななみ書房）を使用。他に授業中に適宜資料を配付する。						
参考図書	平成29告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
準備学習	新聞記事や書籍などを活用して幼児についての興味や関心を高める。						
課題等に対するフィードバック方法	講義の中で取り上げていく。						
準備学習（予習・復習等）に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	学習や研究、活動に主体的に取り組むこと。						
実務経験と資格等	博士(教育学)。長野県短期大学名誉教授。第一種幼稚園教諭、保育士、第一種小学校教諭、学校心理士、上級教育カウンセラー						

科目名	社会的養護 I					担当者名	比田井 友香
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25Y23A12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について概説したうえで、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の原則及び社会的養護における保育士等の倫理と責務について解説する。そのうえで、社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、社会的養護に関する社会的状況や課題について学習する。						
到達目標	社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、その社会的状況や課題について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	社会的養護の理念と概念及び歴史の変遷について					
	3	子どもの人権擁護と社会的養護について					
	4	社会的養護の基本原則について					
	5	社会的養護における保育士等の倫理と責務について					
	6	社会的養護の制度と法体系について					
	7	社会的養護の仕組みと実施体系について					
	8	社会的養護の対象について					
	9	家庭養護と施設養護について					
	10	社会的養護に関わる専門職について					
	11	社会的養護に関する社会的状況について					
	12	施設等の運営管理について					
	13	被措置児童等の虐待防止について					
	14	社会的養護と地域福祉について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%	
		中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%	
		試験	問題の正答率			40%	
教科書	『子どもの未来を支える社会的養護』 (2019年11月) ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名	乳児保育 I					担当者名	橋本 佳美
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25Y23A13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	乳児保育の意義と目的や歴史の変遷及び乳児保育の役割と機能について概説するとともに、保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について考察する。そのうえで、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育の内容と援助や配慮及び運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学習する。						
到達目標	乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	乳児保育の意義と目的及び歴史の変遷について					
	3	乳児保育の役割と機能について					
	4	乳児保育における養護及び教育について					
	5	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる現状と課題について					
	6	保育所及び保育所以外の児童福祉施設における乳児保育について					
	7	家庭的保育等における乳児保育について					
	8	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について					
	9	3歳未満児の生活や遊びと環境について					
	10	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について					
	11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりについて					
	12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について					
	13	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について					
	14	乳児保育における連携と協働について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		課題提出	課題が自分の言葉で考察されて記述できている			30%	
		試験	問題の正答率			60%	
		授業参加態度	発言したり提案したりできていたか			10%	
教科書	菊池篤子編(2022). ワークで学ぶ乳児保育 I・II. みらい						
参考図書	①三池輝久他 赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻 睡眠・食事・生活の基本 ②林万里(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ビデオ教材: ①赤ちゃんの1年(0-6か月)、赤ちゃんの1年(7か月以降) ②サクランボ坊や 1から5 ③発達診断の実際 乳児期から幼児期. 大槻書店(全6巻)						
準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること						

課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他 留意事項	
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり

専門関連科目

科目名	保育内容指導法（健康）				担当者名	白金 俊二	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児にとっての基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防や安全について、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、子どもが健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心情や動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。 ・ 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・ 模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「健康」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「健康」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「健康」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「健康」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「健康」の模擬保育について					
8	領域「健康」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		課題レポート	課題の趣旨を理解した内容とまとめ方			40%	
		成果物提出、発表	指導案など授業内の成果物の提出状況や発表内容			40%	
		模擬保育	指導案の計画に沿った保育の実践			20%	
教科書	保育内容健康（光生館） 保育内容の指導法健康（学術文芸出版）						
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
準備学習	予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名	保育内容指導法（人間関係）				担当者名	山口 美和	
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25Y24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	領域「人間関係」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説し、領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の作成を学習する。						
到達目標	具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を理解することができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「人間関係」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「人間関係」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「人間関係」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「人間関係」の模擬保育について					
	8	領域「人間関係」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	参加態度	授業への参加態度			20%		
	リアクションペーパー	授業の内容を理解し、適切にまとめられているか			20%		
	最終レポート	課題を理解し、論旨が明確に論じられているか			60%		
教科書	『平成29年度告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド本社） 岸井慶子・酒井真由子編著『コンパス保育内容人間関係』（建帛社）						
参考図書	授業時に適宜紹介します。						
準備学習	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を通しておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育内容指導法（環境）					担当者名	副島 里美
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域における「環境」を理解する ・保育にかかわる様々な実践を考えることによって、環境の在り方を考察する ・保育にかかわる物的・空間的環境の構成について、発達に応じた保育環境を計画する 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」のねらいと内容を理解する ・子どもの発達と環境のかかわりについて理解し、環境を整えることが子どもの発達や主体性に繋がることを理解する ・計画した保育内容について、自分自身、あるいはお互いにアセスメントし、よりよい計画に繋げることができる 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「環境」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「環境」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「環境」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「環境」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「環境」の模擬保育について					
	8	領域「環境」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	小テスト	授業の振り返り				40%	
	授業態度					10%	
	提出物					20%	
	最終課題	テストあるいはレポート				30%	
教科書	大沢 裕『コンパクト 保育内容シリーズ 環境』（一藝社） 高山静子『学びを支える保育環境作り』（小学館） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）読み解く『障害児保育』（萌文書林）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		保育内容指導法（言葉） 幼2種（必修）				担当者名	渡邊 望
ナンバリング		25Y24B04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「言葉」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。					
到達目標		具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法が分かる。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「言葉」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「言葉」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「言葉」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「言葉」の模擬保育について					
8	領域「言葉」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		確認テスト （筆記試験）		ことばの発達と保育者のかかわりについて40点満点で筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価する。		40%	
		指導案作成・模擬保育		指導案作成（20）子どもの姿、留意点が記され、実際に保育が可能か否か、模擬保育（10）声の大きさ、進め方、振り返り（10）自己評価、今後の課題、以上の観点で評価し配点する。		40%	
		授業参加態度		授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する。		20%	
教科書		『保育内容（言葉）』同文書院 太田光洋編著 2021年					
参考図書		『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）					
準備学習		これまでに学修した、保育の基本や子どもの育ちなどについて、理解していることを前提に授業を進めます。2学期までの学びを確認したうえで受講してください。					
課題等に対するフィードバック方法		<ul style="list-style-type: none"> ・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。 ・各課題、確認テストの振り返りは授業内で行います。 					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項		<p>①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。</p> <p>②絵本などの児童文化財は「知っている」だけでなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。</p>					
実務経験と資格等		実務経験：保育所・幼稚園での保育経験10年、保育者養成校での教員経験17年 資格等：幼稚園教諭免許・保育士資格					

科目名	幼児と表現（音楽表現）				担当者名	浅倉 恵子	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	手遊びを導入として展開する幼児の音楽表現活動の援助法を、実践的に学ぶ。						
到達目標	手遊びを導入とする幼児の音楽表現活動の援助法を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「音楽表現」の位置づけについて					
	2	幼児の音楽表現を生成する過程について					
	3	音楽表現の知識と技能について（1）ピアノの伴奏方法					
	4	音楽表現の知識と技能について（2）弾き歌いの技能					
	5	音楽表現の知識と技能について（3）手遊びと指導方法					
	6	音楽表現の知識と技能について（4）子どもが歌うための援助方法					
	7	音楽表現の知識と技能について（5）幼児歌曲（童謡と遊び歌）					
	8	音楽表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		平常点評価	授業への取り組み姿勢、模擬保育の準備を評価する			60%	
		試験	実技課題の達成度を評価する			40%	
						%	
教科書		『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例ー』浅倉恵子、風詠社、2020年					
参考図書		『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版 2023年					
準備学習		模擬保育を担当するときは、準備物を工夫し、準備・練習する					
課題等に対するフィードバック方法		実技練習についてはその都度講評、解説を行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習およびピアノの練習に1～4時間を奨励する。					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育内容指導法（造形表現）					担当者名	水野 道子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	子どもの「表現」に関する基礎的な事項について学ぶ。子どもの造形について発達の観点から知り、造形の遊びへと展開できる技術を身につけ保育計画や指導案を作成し模擬保育を行う。						
到達目標	①領域「表現」の内容について基礎的な知識を得る。②授業内での模擬保育を構築することができる。③保育者として自ら表現することの楽しさを感じ、子どもの発達に応じた表現の支援を行う力を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「造形表現」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「造形表現」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「造形表現」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「造形表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「造形表現」の模擬保育について					
8	領域「造形表現」の模擬保育と振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		テスト	模擬保育の教材研究にかかわる試験での達成率			50%	
教科書	「表現指導法」上野奈初美編著 萌文書林、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と資格等	小学校、中学校・高等学校（美術）教員免許を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	教育制度論					担当者名	大佐古 紀雄
	幼教2種 (必修)						
ナンバリング	25Y24B07	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・①
授業内容	社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響と課題及び課題に対応するための教育政策の動向、現代公教育の意義や原理と構造について法的・制度的仕組みについて解説し、学校・行政機関・地域との連携によって危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みについて学習する。						
到達目標	学校や教育行政機関の目的及び学校と地域との連携の意義や協同について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	学校を巡る状況の変化及び子供の生活の変化と指導上の課題について					
	2	近年の教育政策の動向及び諸外国の教育事情と教育改革について					
	3	公教育の原理と理念及び公教育制度を構成している教育関係法規について					
	4	教育行政の理念と仕組み及び教育制度をめぐる諸課題について					
	5	学校経営の望むべき姿及び教育活動の流れと学校評価の重要性について					
	6	学校経営の仕組みと方法及び関係者や関係機関との連携・協働について					
	7	学校と地域との連携の意義及び地域との協働について					
8	学校安全の目的と必要性及び安全管理と安全教育の取組みについて						
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	授業参加態度(提出物含む)					30%	
	試験(筆記)					70%	
教科書	適宜提示する。						
参考図書	星野敦子編著、桶田ゆかり・近藤有紀子著『「共創の時代」の教育制度論』、学文社、2021。						
準備学習							
課題等に対するフィードバック方法							
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	大学の認証評価を行う機関による調査研究や省庁から受託した委託研究などを通じて得られた教育制度に関する知見をもとに、幼児教育・保育をめぐるさまざまな制度を理解するための視野を培う授業を行う。						

科目名	特別支援教育・保育論Ⅱ					担当者名	副島 里美 細渕 富夫 (オムニバス)
	保育士(必修)						
ナンバリング	25Y24B08	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	障害の概念と障害児保育の歴史的変遷について解説し、障害児と特別な配慮を要する子どもの保育の実際及び現状と課題について考察する。肢体不自由児・知的障害児・視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児・発達障害児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と発達援助について学習する。						
到達目標	障害児を支える理念及び障害児や特別な配慮を要する子どもの理解と、保育における発達の援助や過程への支援並びに障害児保育の現状と課題について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	障害の概念と障害児保育の歴史的変遷及び障害児保育の基本について(副島里美)					
	2	障害のある子の理解と発達支援(1)知的障害児・肢体不自由児(細渕富夫)					
	3	障害のある子の理解と発達支援(2)視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児(細渕富夫)					
	4	障害のある子の理解と発達支援(3)発達障害児(ADHD・LD・ASD)(細渕富夫)					
	5	障害のある子の理解と発達支援(4)重症心身障害児・医療的ケア児(細渕富夫)					
	6	障害児と特別な配慮を要する子どもの保育(1)指導計画と支援計画(副島里美)					
	7	障害児と特別な配慮を要する子どもの保育(2)子どもの健康と安全(副島里美)					
	8	障害児と特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題について(副島里美)					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			50%	
教科書	細渕富夫他編『特別な支援を必要とする子どもの理解』建帛社、2023年 尾野明美 ほか『エピソードから読み解く 障害児保育』(萌文書林)						
参考図書	特になし。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。						
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園等、附属特別支援学校にて知的障害児、自閉スペクトラム症児等の教育研究に従事						

科目名	教育方法論					担当者名	副島里美、森下孟 (オムニバス)
	幼2種 (必修)						
ナンバリング	25Y24B09	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育の方法やあり方、育みたい資質や能力と幼児理解に基づいた評価の考え方について概説したうえで、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用について学習する。						
到達目標	情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用ができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	教育方法の意義と目的及び思想と歴史について (担当: 副島里美)					
	2	今後の社会を担う子供たちに求められる資質と能力について (担当: 副島里美)					
	3	育みたい資質や能力と幼児理解に基づく評価の考え方について (担当: 副島里美)					
	4	保育を構成する基礎的な要件について (幼児・学級・教員・教材等) (担当: 副島里美)					
	5	保育を行う上での基礎的な指導技術について (話法・板書等) (担当: 森下孟)					
	6	指導案の構成と作成について (担当: 森下孟)					
	7	情報機器を活用した教材等の作成について (担当: 森下孟)					
	8	情報活用能力を育成するための指導法について (担当: 森下孟)					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		振り返りレポート	毎回のレポート			40%	
		課題	課題			20%	
		授業態度	授業への意欲等			10%	
		定期試験	定期試験			30%	
教科書	「保育方法の基礎」(柴崎正行編著)わかば社 教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び, 稲垣忠(編著), 北大路書房						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	教育相談					担当者名	細渕 富夫
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25Y24B10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	教育相談の意義と役割及び幼児の発達の状況に即しつつ、幼児の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの意義と理論や方法、幼児や保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備、組織的な取り組み及び専門機関等との連携について学習する。						
到達目標	教育相談の進め方と教育相談の計画の作成や校内体制の整備など、組織的な取り組み及び専門機関との連携について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	教育相談の意義と役割について					
	3	教育相談に必要な基礎知識（1）カウンセリングとは					
	4	教育相談に必要な基礎知識（2）カウンセリングの理論と技法Ⅰ（精神分析）					
	5	教育相談に必要な基礎知識（3）カウンセリングの理論と技法Ⅱ（自己理論）					
	6	教育相談に必要な基礎知識（4）カウンセリング技法Ⅱの理論と技法Ⅲ（行動療法）					
	7	子どもの発達と教育相談					
	8	教育相談におけるアセスメント					
	9	教育相談の進め方（1）障害児のある幼児・児童に対する教育相談（発達支援）					
	10	教育相談の進め方（2）保護者に対する教育相談（保護者支援）					
	11	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（1）いじめ					
	12	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（2）登園しぶり					
	13	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（3）虐待					
	14	教育相談の体制整備と多職種連携について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			50%	
教科書		住本克彦『教育相談』建帛社、2022年					
参考図書		特になし。					
準備学習		あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。					
課題等に対するフィードバック方法		返却時にコメント、解説を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項		ワークブック等を活用して理解を深める。					
実務経験と資格等		臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で教育相談に従事してきた。					

科目名	子ども家庭福祉					担当者名	副島 里美 中野 明子 吉澤 恵子 (オムニバス)
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25Y24B11	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を考える上で、家庭福祉がいかに重要かについて学ぶ ・児童の権利について考える ・多様な保育 (福祉) ニーズについて学ぶ 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利が家庭・園・地域の中でどのように守られていくべきかを説明することができる ・現代社会における多様な現状 (少子化への対応、貧困家庭、虐待など) を理解し、支援方法を考えることができる 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について (担当: 全教員)					
	2	子ども家庭福祉の理念と概念について (担当: 吉澤恵子)					
	3	子ども家庭福祉の歴史的変遷について (担当: 吉澤恵子)					
	4	子どもの人権擁護の歴史的変遷について (担当: 吉澤恵子)					
	5	児童の権利に関する条約について (担当: 中野明子)					
	6	子ども家庭福祉の制度と実施体系について (担当: 吉澤恵子)					
	7	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職について (担当: 吉澤恵子)					
	8	少子化と地域子育て支援及び母子保健について (担当: 吉澤恵子)					
	9	多様な保育ニーズへの対応について (担当: 副島里美)					
	10	子ども虐待及びDVとその防止について (担当: 副島里美)					
	11	障害のある子どもへの対応について (担当: 副島里美)					
	12	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について (担当: 副島里美)					
	13	子ども家庭福祉の動向と展望について (担当: 吉澤恵子)					
	14	海外の子育て支援の現状について (担当: 中野明子)					
15	授業のまとめ (担当: 全教員)						
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	小テスト	授業の振り返り				40%	
	提出物	レポート提出				20%	
	授業態度	グループディスカッション等に意欲を持って参加しているか評価				10%	
	最終課題	筆記試験あるいはレポート				30%	
教科書	『家庭支援論・保育相談支援』学文社						
参考図書							
準備学習	次回のシラバスを確認。教科書および関連する報道等に関心を持ち、授業に臨むこと。						
課題等に対するフィードバック方法	授業で課した課題(レポート等)は作成し提出。返却時にコメントを添え、学びに繋げていく。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授						

科目名	社会福祉				担当者名	比田井 友香	
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、社会福祉の制度や法体系と社会福祉行政財政や社会福祉施設及び社会保障や関連制度を解説したうえで、その方法や技術について学習する。						
到達目標	社会福祉における相談援助の意義と機能や、対象と過程及び方法と技術について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	社会福祉の理念と概念について					
	3	社会福祉の歴史の変遷について					
	4	子ども家庭支援について					
	5	社会福祉の制度と法体系について					
	6	社会福祉行政と実施機関について					
	7	社会福祉施設と専門職について					
	8	社会保障及び関連制度について					
	9	相談援助の意義と機能について					
	10	相談援助の対象と過程について					
	11	相談援助の方法と技術について					
	12	利用者の保護に関わる仕組みについて					
	13	社会福祉の動向と課題について					
	14	諸外国の動向について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%		
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%		
	試験	問題の正答率			40%		
					%		
教科書	『子どもの未来を育む社会福祉』（2023年3月）ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						

課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他 留意事項	
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士

科目名	子ども家庭支援論					担当者名	小笠原 憲子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	子育て家庭に対する支援の意義と役割や必要性及び目的と機能について概説したうえで、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について解説し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について学習する。						
到達目標	子育て家庭の福祉を図るための社会資源や子育て支援施策・次世代育成施策など、子育て家庭に対する支援体制について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子ども家庭支援の意義と必要性及び目的と機能について					
	3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について					
	4	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援について					
	5	保育士に求められる基本的態度について					
	6	家庭の状況に応じた支援について					
	7	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力について					
	8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について					
	9	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について					
	10	子ども家庭支援の内容と対象について					
	11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援について					
	12	地域の子育て家庭への支援について					
	13	要保護児童等及びその家庭に対する支援について					
	14	子ども家庭支援に関する現状と課題について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業参加状況	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				30%	
	課題への対応	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	試験	問題の正答率				40%	
						%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「子ども家庭福祉論」同文書院 2022 太田光洋編著						
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき、あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						

課題等に対するフィードバック方法	添削をし、返却。返却時に講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する。
その他 留意事項	保育士資格必修科目
実務経験と資格等	・児童福祉施設職員の研修・指導等の経験あり。・地域子育て支援拠点の運営・運営責任者の経験あり。

科目名	社会的養護Ⅱ				担当者名	比田井 友香	
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B14	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	子ども理解を踏まえた日常生活支援、治療的支援、自立支援などの社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の生活特性と実際について解説する。そのうえで、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際と社会的養護に関わる相談援助の方法や技術、子どもの虐待の防止と家庭支援及び今後の課題と展望について考察する。						
到達目標	社会的養護における子ども理解のうえで、アセスメントと個別支援計画の作成、記録及び自己評価を作成することができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	社会的養護における子どもの理解について					
	2	日常生活支援・治療的支援・自立支援について					
	3	施設養護及び家庭養護の生活特性及び実際について					
	4	アセスメントと個別支援計画の作成					
	5	記録及び自己評価について					
	6	保育の専門性に関わる知識と技術及び実践について					
	7	社会的養護に関わる相談援助の知識と技術及び実践について					
	8	社会的養護における家庭支援及び課題と展望					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%		
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%		
	試験	問題の正答率			40%		
					%		
教科書	『子どもの未来を支える社会的養護』（2019年11月）ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名	子ども家庭支援の心理学					担当者名	平澤 泉
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B15	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について学ぶとともに、初期体験の重要性や発達課題、家族や家庭の意義と機能、親子関係や家族関係等について発達的な観点から考察していく。						
到達目標	子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	現代社会における子育て支援の必要性について					
	3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について					
	4	学童期後期から青年期にかけての発達について					
	5	成人期・老年期における発達について					
	6	家族・家庭の意義と機能について					
	7	親子関係・家族関係の理解について					
	8	子育ての経験と親としての育ちについて					
	9	子育てを取り巻く社会的状況について					
	10	ライフコースと仕事・子育てについて					
	11	多様な家庭とその理解について					
	12	特別な配慮を要する家庭について					
	13	子どもの生活及び生育環境とその影響について					
	14	子どもの心の健康に関わる問題について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			70%	
教科書	「子ども家庭支援の心理学 子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る」著編／北川裕美子 他3名 著／小川綾子他12名						
参考図書	「シードブック 子ども家庭支援の心理学」編著／本郷一夫、神谷哲司 「子ども家庭支援」著者／倉石哲也、大竹智 出版社／ミネルヴァ書房						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て家庭を支援する知識と技術を身に付ける。						
実務経験と資格等	【実務経験】幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の主任保育士、利用者支援事業利用者支援専門員（子育てコンシェルジュ）【資格・免許】幼稚園教諭二級免許、保育士、利用者支援事業利用者支援専門員						

科目名	子どもの理解と援助					担当者名	小林 詩子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B16	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	保育実践において実態に即した子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するうえでの視点と基本的な考え方について解説し、子どもを理解するための具体的な方法について学習する。						
到達目標	発達の課題に応じた援助と関わりや、特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	保育における子どもの理解の意義について					
	2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開について					
	3	子どもを理解する視点（1）子どもの生活や遊びと人的環境					
	4	子どもを理解する視点（2）子ども相互の関わりと関係づくり					
	5	子どもを理解する視点（3）保育の環境と構成及び環境の変化と移行					
	6	子どもを理解する方法（1）観察・記録・省察・評価					
	7	子どもを理解する方法（2）職員間の対話と保護者との情報共有					
8	子ども理解に基づく発達の援助について						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		平常点・課題	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する			30%	
		定期試験	正答率			30%	
		各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか			40%	
教科書	新保育ライブラリ 子どもを知る 子どもを理解と援助 清水益治他著 北大路書房						
参考図書	よくわかる！保育士エクササイズ 子どもを理解と援助 演習ブック 松本峰雄監修 伊藤雄一郎他著 ミネルヴァ書房						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	長野女子高等学校講師、長野県短期大学講師 信学会長野幼稚園体育教諭 信学会裾花幼稚園体育教諭 中学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）高等学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）						

科目名	子どもの保健					担当者名	吉澤 恵子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B17	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	健康の概念と健康指標及び保健活動の意義と目的について概説したうえで、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題及び子どもの心身の健康増進を図る保健活動について解説する。そのうえで、身体発育及び運動機能並びに生理機能の発達と保健について学ぶとともに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応について学習する。						
到達目標	子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応が分かる。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	健康の概念と健康指標について					
	3	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について					
	4	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について					
	5	地域における保健活動について					
	6	子ども虐待防止について					
	7	身体発育の発達と保健について					
	8	運動機能の発達と保健について					
	9	生理機能の発達と保健について					
	10	健康状態の観察について					
	11	心身の不調等の早期発見について					
	12	発育・発達の把握と健康診断について					
	13	主な疾病の特徴について					
	14	子どもの疾病の予防と適切な対応について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		小テストや課題提出	課題の理解度			20%	
		試験	正答率			80%	
教科書	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂3版 小林 美由紀編著 森脇 浩一編集協力 診断と治療社						
参考図書	・国民衛生の動向（厚生労働省） ・保育所保育指針						
準備学習	授業計画で示されている内容について、身近な子どもたちや新聞記事等に関心を持ち、授業に参加すること						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点后必要に応じて授業内で返却し、講評する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	授業内で伝えますが、自身の母子健康手帳を使用する時間があります。						
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育て支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として学校行事等への従事経験あり。						

科目名	子どもの食と栄養					担当者名	風間 悦子
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25Y24B01	授業の種類	演習	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養と子どもの発育・発達と食生活の関連について具体例を挙げながら理解を深めるようにする。						
到達目標	養護及び教育の一体性を踏まえた保育における意義と目的や基本的考え方について、理解することができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子どもの心身の健康と食生活について					
	3	子どもの食生活の現状と課題について					
	4	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について					
	5	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について					
	6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について					
	7	幼児期・学童期の心身の発達と食生活について					
	8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方について					
	9	食育の内容と計画及び評価及び環境について					
	10	食生活指導及び食を通じた保護者への支援について					
	11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養について					
	12	疾病及び体調不良の子どもへの対応について					
	13	食物アレルギーのある子どもへの対応について					
	14	障害のある子どもへの対応について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業参加姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			20%	
		課題提出	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			50%	
教科書	子どもの食と栄養―演習― 岡崎光子編著 同文書院						
参考図書							
準備学習	授業に掲示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき、あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	管理栄養士						

科目名	乳児保育Ⅱ					担当者名	橋本 佳美
	保育士(必修)						
ナンバリング	25Y24B19	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わり等の基本的な考えを解説し、養護や教育の一体性をふまえて子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的な事例を取り上げ、乳児保育における計画の作成について学習する。						
到達目標	乳児保育について長期・短期・個別・集団の指導計画を立てることができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて					
	2	子どもの主体性の尊重と自己の育ち及び学びの芽生えについて					
	3	生活の流れと生活や遊びを支える環境の構成について					
	4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について					
	5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について					
	6	乳児保育における配慮の実際について					
	7	長期的な指導計画と短期的な指導計画について					
	8	個別的な指導計画と集団の指導計画について					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		課題提出	課題の意味を理解し記述できているか			30%	
		試験	正答率			50%	
		参加態度	発言し提案していたか			20%	
教科書	菊池篤子編(2022). ワークで学ぶ乳児保育Ⅰ・Ⅱ. みらい						
参考図書	①田中真介(2009). 発達がわかれば子どもが見える 0歳から就学までの目からウロコの保育実践. 幼児保育研究会 ②林万リ(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ③吉本和子(2002). 乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために. エイデル研究所						
準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること						
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり						

科目名	子どもの健康と安全					担当者名	吉澤 恵子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y24B20	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助と衛生管理や事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について概説する。そのうえで、子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策など、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的な事例を取り上げながら学習する。						
到達目標	子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画及び評価を理解できる。						
授業計画	回	内 容					
	1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について					
	2	保育における健康及び安全の管理について					
	3	体調不良や傷害が発生した場合の対応について					
	4	応急処置と救急処置及び救急蘇生法について					
	5	感染症対策について					
	6	保育における保健的対応の考え方について					
	7	個別的な配慮や障害のある子どもへの対応について					
	8	健康及び安全の管理の実施体制について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		グループワークや演習での課題	グループワークや演習への参加態度、課題の理解度を評価			20%	
		試験	正答率			80%	
教科書	「これならわかる！子どもの保健演習ノート」 改訂第3版追補 小林美由紀執筆						
参考図書	・保育所保育指針 ・保育所における感染症対策ガイドライン ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン等						
準備学習	各回の授業内容について、「子どもの保健」の教科書：授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂2版 小林 美由紀編著 森脇 浩一編集協力 診断と治療社で復習しておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点后必要に応じて授業内で返却し、講評する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	演習授業であるため、欠席した場合は必ず演習した内容の確認を行いましょう。						
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育て支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として、学校行事等への従事経験あり。						

科目名	子育て支援					担当者名	平澤 泉
	保育士（必修）						
ナンバリング	25Y25D21	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	子どもの保育とともに行う保護者の支援や日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育士の行う子育て支援の特性について概説し、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について、実践事例等を通して具体的に学習する。						
到達目標	子育て支援の計画と実践や社会資源の活用について理解する。						
授業計画	回	内 容					
	1	保育者が行う子育て支援の特性について					
	2	要支援者の状況や状態の把握と支援の計画について					
	3	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて					
	4	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について					
	5	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について					
	6	障害や特別な配慮を要する子どもと家庭に対する支援について					
	7	虐待の予防と対応及び要保護児童等の家庭に対する支援について					
	8	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解について授業の目的と概要について					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	試験	問題の正答率				70%	
						%	
教科書	「子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック」著／二宮祐子 出版社／萌文書林						
参考図書	「人口減少時代に向けた 保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援 地域とともに歩む22の実践事例」編集代表／倉石哲也 出版社／中央法規出版 「今、もっとも必要な これからの子ども・子育て支援」（これからの保育シリーズ9）編著／土谷みちこ 著者／汐見稔幸 他3名 出版社／風鳴舎						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て支援に関する知識と技術を身に付ける。						

実務経験と資格等

【実務経験】 幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の保育士、利用者支援事業利用者支援専門員(子育てコンシェルジュ)
【資格・免許】 幼稚園教諭二級免許状、保育士証、利用者支援事業利用者支援専門員

科目名		幼児と運動				担当者名	白金 俊二	
		選択						
ナンバリング		25Y24D22	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容		鬼遊び、ボールなどの用具を使った遊び、遊具や器械・器具を使った遊び、その他環境を活用した遊びを実践的に学び、支援の仕方を身に付ける						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の知的発達や運動機能の発達等を理解して保育を構想し実践できる ・ 幼児期の運動遊びの意義を理解できる 						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	体づくり運動（1）体ほぐしの運動						
	2	体づくり運動（2）多様な動きをつくる運動遊び						
	3	運動遊び（1）器械・器具を用いた遊び						
	4	運動遊び（2）走ったり跳んだりする遊び						
	5	ゲーム（1）ボールゲーム						
	6	ゲーム（2）鬼遊び						
	7	表現リズム遊び（1）表現遊び						
	8	表現リズム遊び（9）リズム遊び						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		課題レポート		課題の趣旨を理解した内容とまとめ方			80%	
		実技課題		実技課題に対する理解度や達成度			20%	
教科書		運動遊びのアイデアBOOK（ほおずき書籍）						
参考図書		幼児期運動指針（文部科学省）						
準備学習		予め教科書に目を通しておくこと						
課題等に対するフィードバック方法		添削をし返却する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する						
その他 留意事項		怪我等の予防のため、運動不足にならないように日ごろから留意すること						
実務経験と資格等		長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名		幼児と音楽				担当者名	浅倉 惠子 大南 匠 (共同)	
		選択						
ナンバリング		25Y24B23	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容		幼児の音楽表現活動の実際を理解し、保育者援助について実践的に学ぶ。						
到達目標		子どもの音楽表現活動を学び、保育者援助法を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	歌唱・器楽・鑑賞の活動						
	2	音楽づくりの活動						
	3	子どもの音楽表現活動（1）歌唱・声の表現活動						
	4	子どもの音楽表現活動（2）器楽遊びの表現活動						
	5	音楽技術（1）歌唱活動の実践						
	6	音楽実技（2）器楽活動の実践						
	7	音楽実技（3）鑑賞活動の実践						
8	音楽実技（4）弾き歌いの実践							
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		平常点評価		授業への取り組み姿勢を評価する			60%	
		試験		音楽表現の実技試験			40%	
教科書		『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年						
参考図書								
準備学習		ピアノの練習や音楽表現の創作および練習をする						
課題等に対するフィードバック方法		表現発表後に講評を行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習に1～4時間を奨励する						
その他 留意事項								
実務経験と資格等								

科目名	幼児と造形					担当者名	水野 道子
	選択						
ナンバリング	25Y24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・④
授業内容	子どもたちの造形での遊びは体全体を使って表現することで知識や思考を深めていく。子どもたちのみずみずしい発想や創造的な思考を理解するために保育者として自身の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要である。実技を通して身につける機会とする。						
到達目標	領域「表現」の指導に関する幼児の表現の姿やその発達を促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識・技能、表現力を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	描画・表現技法					
	2	工作・製作技法					
	3	造形実技（1）絵の具遊びの実践					
	4	造形実技（2）絵画遊びの実践					
	5	造形実技（3）手作りおもちゃの実践					
	6	造形実技（4）壁面製作の実践					
	7	子どもの造形表現活動（1）季節の制作活動					
	8	子どもの造形表現活動（2）行事の制作活動					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				20%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	課題提出	製作課題の主旨を理解し、工夫し提出できたか				50%	
教科書	テキストは特に定めないが各回にプリントを配布。参考文献として「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめプリントに目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と資格等	小学校、中学校・高等学校（美術）教員免許を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	幼児と安全					担当者名	関 香保里
	選択						
ナンバリング	25Y24B01	授業の種類	演 習	単位数	1	開講時期	2年・④
授 業 内 容	幼稚園や保育園、認定こども園などの教育・保育施設において多発している様々な事故の現状について概説したうえで、教育・保育施設において起こりがちな事故について過去の事例を踏まえながら解説するとともに、事故が発生した主な原因などを取り上げて事故の防止と対策のポイントを学習する。						
到 達 目 標	事故を防ぐために何をすべきか、子どもの命を守るために何ができるのかなど、事故の防止と対策のポイントについて理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	教育現場や保育施設で起こる事故について					
	2	事故事例（1）お昼寝中の事故事例					
	3	事故事例（2）食事中的事故事例					
	4	事故事例（3）散歩中の事故事例					
	5	事故事例（4）送迎中の事故事例					
	6	事故事例（5）年齢別の事故事例					
	7	事故防止と事故対策（1）事故が起こりやすい場所の特定					
8	事故防止と事故対策（2）危険性や改善点の園内での共有						
成績評価方法と基準	評価方法		評 価 基 準			割合	
	授業態度		授業への参加意欲・取組姿勢を評価する			30%	
	レポート		課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
	各回のリアクションペーパー		振り返りを通して思考を深めようとしているか			40%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省。フレーベル館						
	「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省。フレーベル館						
	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	幼稚園主任10年、保育園園長2年、こども園園長1年 保育士資格・幼稚園教諭免許						

科目名	心理アセスメント基礎				担当者名	細渕 富夫	
	選択						
ナンバリング	25Y25D01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	心理アセスメントの意義と目的及び心理アセスメントの分類と基本的な手段や手法について解説したうえで、対象者の情報の見極めと適切な判断及び信頼関係の構築やプライバシーの遵守など、心理アセスメントにおける留意点について学習する。						
到達目標	心理アセスメントの意義と目的及び分類と基本的な手順や手法、心理アセスメントにおける留意点について理解する。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	心理アセスメントの意義と目的及び分類について					
	2	心理アセスメントにおける倫理的配慮について					
	3	アセスメント技法Ⅰ（観察法）					
	4	アセスメント技法Ⅱ（面接法）					
	5	アセスメント技法Ⅲ（検査法）					
	6	インフォームドコンセントについて					
	7	カウンセリング技法の原則について					
	8	面接を妨害する要因と記録について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			50%	
教科書	沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2020年						
参考図書	河合隼雄『無意識の構造』中公新書、2017年。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。						
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で相談相談に従事してきた。						

科目名	心理学的支援法基礎					担当者名	細渕 富夫
	選択						
ナンバリング	25Y25D02	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	心理的支援の意義や目的と心理学的支援法の特質について概説したうえで、心理学的支援法の基礎的な理論と方法、幼児期における特徴的な心理的問題について考察するとともに、心理学的支援法の実際や心理的支援における留意点について学習する。						
到達目標	心理的な支援法の基礎的な理論と方法、幼児期における特徴的な心理的問題、心理的支援法の実際について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	心理学的支援の意義と目的について					
	2	心理学的支援法の特質について					
	3	心理学的支援法の理論と方法について					
	4	心理学的支援法の主要理論					
	5	福祉の中での心理学的支援について					
	6	教育の中での心理学的支援について					
	7	心理学的支援の実際について					
8	心理学的支援における留意点について						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準				割合
		コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか				20%
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%
		試験	問題の正答率				50%
教科書	日比野英子『臨床心理学と心理的支援を基礎から学ぶ』北大路書房、2021年						
参考図書	特になし。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。						
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で相談支援に従事してきた。						

科目名	人間関係構築力基礎					担当者名	関 香保里
	選択						
ナンバリング	25Y25D03	授業の種類	演 習	単位数	1	開講時期	2年・④
授 業 内 容	乳幼児と関わる多様な人の課題を理解し、幼稚園や保育園、認定こども園などの教育・保育施設における現状を解説する。また、対応策を学習する。						
到 達 目 標	保育現場での多様な人との関わりを理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	人間関係と人間関係構築力について					
	2	多様な人間関係について（1）初対面の人との関わり					
	3	多様な人間関係について（2）ネット社会の人間関係					
	4	多様な人間関係について（3）幼児・保護者との人間関係					
	5	多様な人間関係について（4）上司・同僚との人間関係					
	6	コミュニケーション技法（質問力・傾聴力・共感力）					
	7	コミュニケーション技法（平等性・実行力）					
	8	専門職として期待される人間関係について					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する				30%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか				40%	
						%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省。フレーベル館						
	「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省。フレーベル館						
	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	幼稚園主任10年、保育園園長2年、こども園園長1年 保育士資格・幼稚園教諭免許						